



夜の自画像 1973年 4F

川原 かわにし

# 牧野邦夫 素描展

2017年9月22日(金)~10月1日(日)

AM10:00~PM7:00 9月27日(水)定休日

ギャラリーかわにし



髪飾る千穂 リトグラフ

### 牧野邦夫略年譜

1925年 東京・幡ヶ谷に生まれる。

1929年に母、1935年に父を亡くす。

1943年 東京美術学校油画科入学

伊原宇三郎先生の言葉「一日に12時間以上描かなければ歴史に残る画家にはなれない」の教えを生涯守り続けた。

画家牧野邦夫に片想いで31年。

彼の作品は、東洋的世界と中世の西洋を往還する「人」を、卓抜した写実力で幻想的に描いています。初見来、僕の頭の一部に彼の女神が住み続けているのです。見る人を圧倒してやまない彼の絵は、自分だけの井戸を掘り続ける、と時代に左右されることなく一日12時間、描き続けた中から生まれたものです。牧野邦夫は現在、日本の美術史の中に位置づけられようとしています。古臭い、と片付けていた大方の美術関係者の怠慢も今となっては許していいでしょう。優れた作品は、古く見えても新しいものです。枯れることはありません。

作品を扱う中で、美術館で開催された主要な展覧会は見てきました。昨年4月、「牧野邦夫没後30年」に関する記念イベントが小田原市で開催。美術評論家の山下裕二氏の記念講演と千穂夫人との対談を拝聴。会場で千穂夫人にご挨拶させていただいたことが、今展開催のきっかけになりました。いくつかの縁に恵まれましたが、何より感謝すべきは、千穂夫人が、私どもの牧野邦夫への片想いの告白を受け入れてくださったことです。現在、牧野作品を鑑賞できる機会はほとんどありませんが、代表作ともいえる作品が、これも所蔵家のご厚志で出展されます。

この機会に、ぜひともご覧いただき、作品と対峙してみてください。牧野邦夫の世界に足を踏み入ると美の真実の形が見えてくると思います。

最後になりましたが、私どもの無理な告白をお聞き届けいただきました、千穂夫人に心より感謝申し上げますとともに御礼申し上げます。

そして、貴重な作品をお貸しいただきました所蔵家の方々に厚く御礼申し上げます。

1966年 欧州旅行

1986年 10月1日死去 享年61

1989年 牧野の遺作467点のレゾネを兼ねた画集「人 画家牧野邦夫」(編集・発行=牧野邦夫画集刊行委員会)が出版。

1990年 小田急ランドギャラリーで「牧野邦夫展」開催。神戸・大丸、名古屋・バルコギャラリー、京都・大丸ミュージアムKYOTO、尾道市立美術館を巡回。

2013年 練馬区立美術館「牧野邦夫—写実の精髄—展」開催。これを記念して画集「牧野邦夫—写実の精髄—」(求龍堂)が刊行。

2017年 平塚美術館、足利美術館、姫路市立美術館を巡回の「リアルのゆくえ」に牧野邦夫「武装する自画像」を出品。

個展歴 ギャラリー風、文藝春秋画廊、日本橋画廊、ギャラリーバートン、梅田画廊他で作品展。

姫路市立美術館「リアルのゆくえ」  
2017年9月23日~11月5日開催  
牧野邦夫「武装する自画像」出品

ギャラリーかわにし

〒793-0030 愛媛県西条市大町1639-2  
TEL/FAX (0897)55-5768

info@g-kawanishi.com

★最新情報はホームページで!

http://www.g-kawanishi.com/





雑草と小鳥 1986年 50M



椅子



旅人



ちほ 1979年 ハレット



駅で逢った恋人たち

四国は伊予、西条の「ギャラリーかわにし」で牧野のデッサン展を開催していただけることになった。牧野の作品が西の方へ行くのは1991年に尾道市立美術館での遺作展と1997年の広島ギャラリー以来となる。ギャラリーかわにしの塩出さんは牧野のファンであったと仰り、亡くなって31年も経つのに想い続けていただいたことに感謝しかない。

絵を描くことしか出来なかった不器用な牧野の生きた時代は「写真」に対してあまり好意的な時代ではなかった。絵画にも流行があり、人は敏感に時代を映すものを作る。それでも人のこころはきっと時代を超えた通奏低音を聴いている。牧野が描き続けた「人間」はどのように感じてもらえるだろうか多くの方に見て頂けるようお願いばかりである。

牧野千穂

※9月23日 牧野千穂さん在庫予定です。